KDCONV_DIR 階層構造データの一括変換

Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL：045-442-0500　FAX：045-442-0501
URL：https://www.kernelcomputer.co.jp

階層構造データを一括で変換できる KD コンバートシリーズのオプションプログラムです。

特　　長

1. 出力フォルダは入力フォルダと同じ階層構造となります。
2. 出力ファイル名は入力ファイル名＋指定拡張子となります。
3. 変換したい入力データの拡張子を指定できるため、余分なファイルをスキップできます。
4. 入力データの削除指定(変換エラーのみ、変換 OK のみなども選択可能)が可能です。
5. フォルダ単位でマルチページ化し、フォルダ名称がファイル名称となります。
6. 入力データを名前順又は日付順にソートして出力できます。
7. 変換対象とする日付範囲(開始日-終了日)を指定できます。
8. 入力フォルダは 2 個指定することができます。(新旧比較ソフト、データ編集ソフト)

対 応 製 品

- KDraster コンバート ラスター/ラスター変換
- KDraster コンバート ベクター/ラスター変換
- KDprint コンバート
- KDcad コンバート
- KDprintout for driver(印刷)
- Kddiffer(比較処理/バッチ変換)
- RSDF3RS(ラスターデータ新旧比較処理/バッチ変換)
- XDWMGXDW(DocuWorks 文書編集(合成/追加/削除等))
- HPMGHP(HP-GL/2 データ編集(合成/追加/削除))

動 作 環 境

- Solaris9 以降(SPARC)
- HP-UX11i V2 以降
- AIX6.1 以降
- LINUX
- Windows10/11
- Windows Server 2016 / Server 2019
- Windows Server 2022
- Windows Server 2025

価　　格

標準価格：15 万円(税抜き)

基　本　画　面

コマンドライン上から、変換したいファイルのあるディレクトリ名と変換後に出力される
ディレクトリ名を指定して実行します。
下の例では HPGL/PostScript 変換ソフト HPTOPST を使用して in_dir ディレクトリにある拡張子が
hp または hpg のデータを、dir_in.atr による指定されたモードで PostScript に変換して
out_dir ディレクトリに出力します。
変換後のファイル名は入力ファイル名の拡張子を ps にしたファイル名となります。

使用しているオプション -O,-DATR,-EXTIN,-EXTOUT の詳細につきましてはオプションの項目をご覧ください。

```
A>KDCONV_DIR in_dir -Oout_dir -DATRdir_in.atr -EXTINhp,hpg -EXTOUTps

HP-GL -> PostScript　ファイル　コンバータ

ただいま、ファイル変換中です。

HPTOPST　変換終了
```

オプション

-O[dir_name]　：出力先のディレクトリを指定。
入力はデータファイルの時、出力データファイルとして指定されます。
この時、-DIR, -EXTIN, -EXTOUT は無効とします。

-DIR[md1md2md3]　：md1：指定拡張子以外のファイルを処理する場合の方法を設定します。
C：ファイル名を変更せずに出力ディレクトリへコピーする。
N：無視する。変換もコピーも行わない。(初期値：N)

md2：入力階層ディレクトリ構造に合わせて、出力ディレクトリへ作成する
場合の設定をします。(ディレクトリを作成)
C：既存のディレクトリがあってもそのままそこを使用する。
N：既存のディレクトリがあるとエラーにしてそこには出力しない。(初期値：N)

md3：出力先に出力ファイルと同一ファイル名を持つファイルが既にあった場合の設定
をします。
R：上書きを行います。
N：上書きを行わない。(初期値：N)

(入力例 1) -DIRCC
(入力例 2) -DIRCCR

-EXTIN[E1,E2,‥]　：入力ディレクトリにあるファイルの内、変換対象となるファイルの拡張子を
設定します。ここで設定した拡張子と一致しないファイルは「-DIR[md1md2md3]」
オプションの md1 で決まります。
E1,E2,‥の指定がすべてないとき(-EXTIN)はすべてのデータを変換対象となります。
設定できる拡張子は最大で 8 個です。
(入力例 1) -EXTINplt,glf,dat　　変換対象となる入力データの拡張子は plt,glf,dat です。
(入力例 2) -EXTIN　　すべての入力データが変換対象です。

-EXTOUT[EXT]　：出力ファイルの拡張子を設定します。
出力ファイル名は入力ファイル名にここで設定した拡張子を付けたものになります。
-EXTOUT パラメータを設定しない場合は「拡張子なし」となります。

(入力例 1) -EXTOUTpdf　　変換されたデータの拡張子は pdf です。
(入力例 2) -EXTOUT　　変換されたデータの拡張子は なし となります。

-DATR[atr_file]　：階層データ変換の属性ファイルを指定します。
atr_file ： 属性ファイル名。(初期値：dir_in.atr)

-DELDIR[mode]　：mode = _ALL ：変換後、入力ファイルを全て削除します。
mode = _OK ：変換後、入力ファイルの中で変換対象となった正常変換(OK)のファイルを
全て削除します。
mode = _NG ：変換後、入力ファイルの中で変換対象となった異常終了(NG)のファイルを
全て削除します。
mode = _REF ：変換後、入力ファイルの中で変換対象となったファイルを全て削除します。
即ち DELDIR_OK と DELDIR_NG の両方のファイルを削除します。

(注)　このオプションを指定すると、入力データは削除されますので、十分な配慮が必要です。

-MOVE_DIR[directory] ：「-MOVDIR」が設定されている場合、変換後、入力ファイルの移動先を指定します。

-MOVDIR[mode]　：mode = _ALL ： 変換後、入力ファイルを全て指定先に移動します。
mode = _OK ： 変換後、入力ファイルの中で変換対象となり正常に変換が
終了した(正常終了)ファイルを全て指定先に移動します。
mode = _NG ： 変換後、入力ファイルの中で変換対象となり正常に変換が
終了しなかった(異常終了)ファイルを全て指定先に移動します。
mode = _REF ： 変換後、入力ファイルの中で変換対象となったファイルを全て指定先に移動します。
即ち DELDIR_OK と DELDIR_NG の両方のファイルを指定先に移動します。

-Q　：ヘルプメッセージ
入力パラメータを確認したいときに入力します。

属性データ変換パラメータファイル

属性データ変換パラメータファイル dir_in.atr の内容を変更する事で様々な変換処理が可能となります。

1. **CONVERT_NAME**
   データ変換モード(コンバートソフトの実行名)を指定します。

   CONVERT_NAME = xxxx　　: xxxx はコンバートソフトの実行名

   例 1.　CONVERT_NAME = HP2RS　　HP2RS を使用します。(HP-GL/Raster 変換)
   例 2.　CONVERT_NAME = RS3PST　　RS3PST を使用します。(Raster/PostScript(PDF)変換)
   例 3.　CONVERT_NAME = HPDIFF　　HPDIFF を使用します。(新旧データ比較)
   例 4.　CONVERT_NAME = XDWMGXDW　　XDWMGXDW を使用します。(XDW データ編集)

2. **DIR_MULTI_PAGE**
   フォルダ毎に一つのファイルにマルチページ化します。

   DIR_MULTI_PAGE = Y または N
   　　Y: シングルページをマルチページ化
   　　ファイル名はフォルダ名称となります。
   　　ただし　マルチページ化できるコンバートソフトに限定されます。
   　　(出力データがラスター、PostScript,PDF などは可能です。)
   　　N: そのまま１対１で変換(初期値)

   例 1.　DIR_MULTI_PAGE = Y　　シングルページをマルチページ化します。

3. **OUT_FILENAME**
   フォルダ毎に一つのファイルにマルチページ化する時、出力ファイル名を指定します。
   このパラメータは DIR_MULTI_PAGE = Y の時のみ有効です。
   (入力フォーマット)

   OUT_FILENAME =　DLE_NAME , FULL_PATH または FIRST_FILENAME
   　　DLE_NAME　　: 親フォルダ名を出力ファイル名とします。(初期値)
   　　FULL_PATH　　: 出力先のフルパス名(「¥」「/」を抜き)を出力ファイル名とします。
   　　FIRST_FILENAME : 出力データの１頁目の元ファイル名を出力ファイル名とします。

   例 1.　OUT_FILENAME = FIRST_FILENAME　　出力データの１頁目の元ファイル名を出力ファイル名とします。
   例 2.　OUT_FILENAME = FULL_PATH　　出力先のフルパス名(「¥」「/」を抜き)を出力ファイル名とします。
   　　例えば、出力先のフルパス名は「C:¥123¥456¥789」の時、出力ファイル名は「123456789.***」となります。

4. **DATA_SORT**
   指定フォルダ毎に変換対象とする順番を決定するために、データのソート方法を指定します。

   DATA_SORT =　NONE , NANE , DATE_OLD または DATE_NEW
   　　NONE　　: データのソートを行わないで、データ変換順は OS に依存します。
   　　ソートしないため変換処理時間が短縮されます。(初期値)
   　　NAME　　: データ変換順を名前の昇順で行います。
   　　DATE_OLD : データ変換順をファイルの古い順で行います。
   　　DATE_NEW : データ変換順をファイルの新しい順で行います。

   例 1.　DATA_SORT = NAME　　データ変換順を名前の昇順で行います。
   例 2.　DATA_SORT = DATE_OLD　データ変換順をファイルの古い順で行います。

5. **REF_DATE**
指定フォルダ毎に EXTIN パラメータで指定した内容に合わせた変換対象ファイルを選択しますが、
その上に日付(yyyymmdd: 例 20010801(2001 年 8 月 1 日))の範囲を変換対象とするように指定します。
(入力フォーマット)

REF_DATE = NONE , BEFORE_yyyymmdd , AFTER_yyyymmdd または REGION_yyyymmdd_yyyymmdd
NONE : すべての日付を変換対象とします。(日付の範囲を設定しない)
BEFORE_yyyymmdd : yyyymmdd より前の日付のみ変換対象とします。
AFTER_yyyymmdd : yyyymmdd より後の日付のみ変換対象とします。
REGION_yyyymmdd_yyyymmdd : yyyymmdd から yyyymmdd の範囲内の日付のみ変換対象とします。

例 1. REF_DATE = AFTER_20000101
2000 年 1 月 1 日以後のデータを変換対象ファイルとします。

例 2. REF_DATE = REGION_20000101_20010831
2000 年 1 月 1 日以後から 2001 年 8 月 31 日までのデータを変換対象ファイルとします。

6. **INFILE_NUM**
入力フォルダ又はファイルの個数を指定します。
(KDdiffer(比較)と合成ソフト(XDWMGXDW など)の場合に用いられます。)
(入力フォーマット)

INFILE_NUM = NUMBER
NUMBER : 入力フォルダ又はデータの個数、有効値は 1,2 となります。(初期値 : 1)

例 1. INFILE_NUM = 2 入力フォルダ又はデータの個数は 2 個となります。

属性データ変換パラメータファイルのサンプル :

```
###################### dir_in.atr ##################
#Converter soft name (HPTOPST, H2TOPST, RS3PST, RS3RS, HP3RS, H23RS, RSTX3RS etc.)
CONVERT_NAME = HPTOPST
#CONVERT_NAME = RS3PST
#CONVERT_NAME = RS3RS
#CONVERT_NAME = RSTX3RS
#CONVERT_NAME = H23RS
#CONVERT_NAME = KDPRNOUT
#CONVERT_NAME = HPDIFF
#CONVERT_NAME = XDWMGXDW
# フォルダ毎に一つのファイル(Y:マルチページ化 , N:そのまま(初期値))
DIR_MULTI_PAGE = Y
# 変換対象とする順番を決定するために、データのソート方法を指定
#   NONE:そのまま(初期値),NAME:名前順,DATE_OLD:日付の古い順,DATE_NEW: 日付の新しい順
DATA_SORT = NONE
# 変換対象ファイルを年月日で範囲を設定
#   NONE:選択なし,BEFORE_yyyymmdd:前の年月日すべて,AFTER_yyyymmdd: 後の年月日すべて
#   REGION_yyyymmdd_yyyymmdd:範囲のみ
REF_DATE = NONE
#REF_DATE = REGIN_20010101_20010830
#Number of input file
#INFILE_NUM = 2
#################### end dir_in.atr ################
```

変　換　例

ディレクトリ C：¥indata のデータを KDCONV_DIR と KD コンバートプログラムを使用して
階層構造を一括変換し、C：¥outdata に出力する例を紹介します。

【例 1】
C：¥indata の HP-GL ファイルを TIFF ファイルに変換する。出力ディレクトリは C：¥outdata とし、
入力側と同じディレクトリ構造で、HP-GL ファイル以外はそのまま出力ディレクトリにコピーする。

■ **変換使用ソフト**
KDCONV_DIR
KDraster コンバート HP2RS

■ **KDCONV_DIR の属性ファイル(dir_in.atr)の設定**
KDCONV_DIR の属性ファイル(dir_in.atr)で変換コンバートソフトの実行名、
マルチページ指定、ソート指定を設定します。

CONVERT_NAME = HP2RS ------- HP2RS を指定
DIR_MULTI_PAGE = N --------- マルチページ指定なし
DATA_SORT = NONE ----------- ソート指定なし

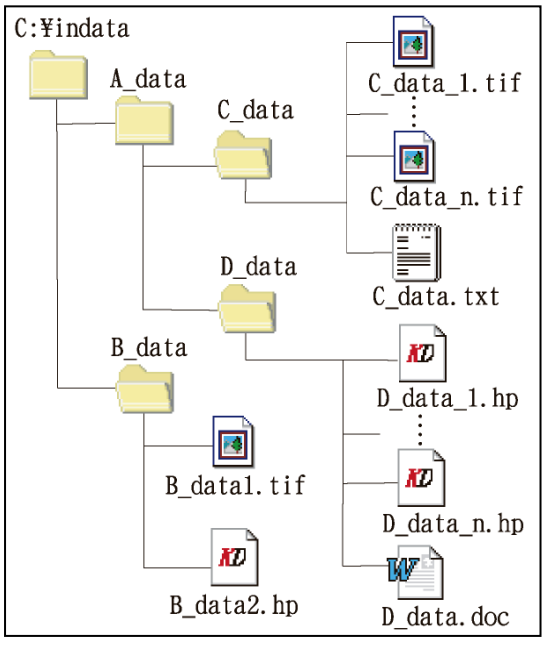
■ **変換**
下記のコマンドを入力します。出力ディレクトリはコマンドライン上で実行時に指定すれば自動的に作成されます。

C：¥outdata には C：¥indata と同じ階層構造が作成され、HP-GL ファイルから変換された TIFF ファイルが
対応フォルダに格納されます。
変換された TIFF のファイル名は入力ファイル名の拡張子を tif に変更したものとなります。
拡張子が hp 以外のファイルは C：¥outdata にそのままコピーされます。

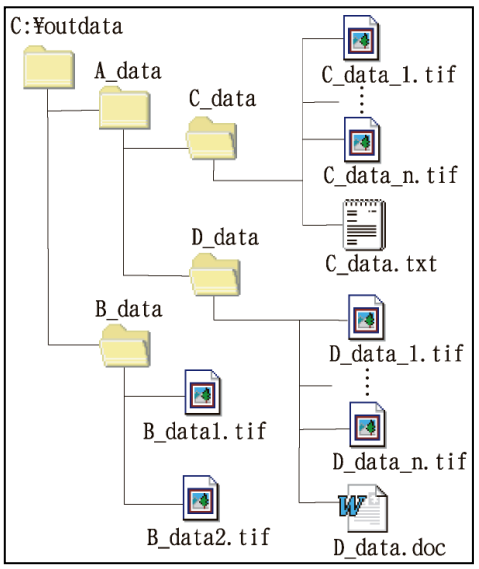
■**入力コマンド**

```
C：¥> KDCONV_DIR indata -ooutdata -extinhp -extouttif -dirc
```

-o　　：出力ディレクトリ名(outdata)
-extin　：変換する入力ファイルの拡張子(hp)
-extout：変換後のファイルフォーマットの拡張子(tif)
-dirc　：指定拡張子以外のファイルはその出力フォルダにコピー



変換するディレクトリ構成



例 1 の出力側ディレクトリ構成

【例 2】

ディレクトリ C：¥indata の TIFF ファイルを名前順でソートして、マルチページの PDF ファイルに変換する。
出力ディレクトリは C：¥outdata とし、変換した PDF ファイル以外は出力ディレクトリに出力しない。

■ **変換使用ソフト**

KDCONV_DIR
KDraster コンバート RS3PST

■ **KDCONV_DIR の属性ファイル(dir_in.atr)の設定**

KDCONV_DIR の属性ファイル(dir_in.atr)で変換コンバートソフトの実行名、
マルチページ指定、ソート指定を設定します。

CONVERT_NAME = RS3PST------- RS3PST を指定
DIR_MULTI_PAGE = Y ---------- マルチページ指定あり
DATA_SORT = NAME ------------ 名前順でデータ変換

■ **マルチページ変換**

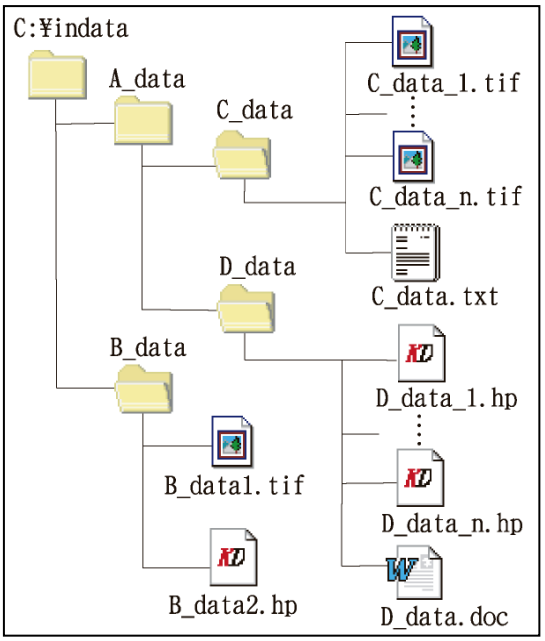
下記のコマンドを入力します。出力ディレクトリはコマンドライン上で実行時に指定すれば自動的に作成されます。

C:¥indata の中の TIFF ファイルはディレクトリごとに名前順にソートされ、マルチページの PDF ファイルに変換されます。
ファイル名はフォルダ名に拡張子を付けたものとなります。
変換された PDF ファイルは入力ディレクトリと同じ階層構造で C：¥outdata に格納されます。C：¥indata の中にあった
TIFF 以外のファイルは C：¥outdata にはコピーされません。

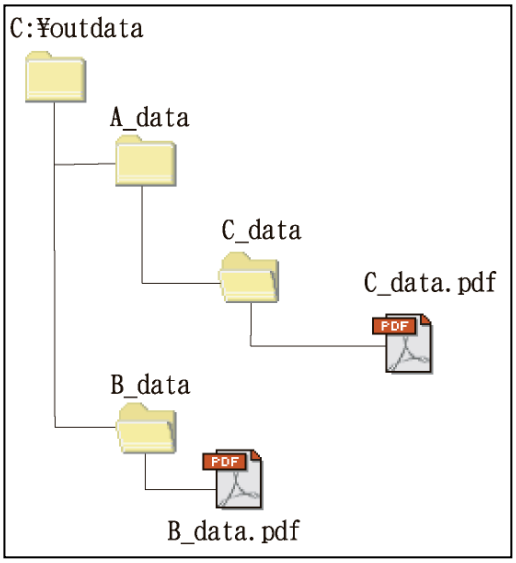
■ **入力コマンド**

```
C：¥> KDCONV_DIR indata -ooutdatat -extintif -extoutpdf -dirn -zpdf_out.atr
```

-o　　：出力ディレクトリ名(outdata)
-extin　　：変換する入力ファイルの拡張子(tif)
-extout　　：変換後のファイルフォーマットの拡張子(pdf)
-dirn　　：指定拡張子以外のファイルは無視
-zpdf_out.atr：RS3PST 用の PDF 出力属性ファイルの指定



変換するディレクトリ構成



例 2 の出力側ディレクトリ構成

【例 3】
C：¥indata の TIFF ファイルを日付の古い順でソートして、マルチページの TIFF ファイルに変換する。
出力ディレクトリは C：¥outdata とし、変換した TIFF ファイル以外は出力ディレクトリに出力しない。
変換後は C：¥indata の TIFF データを削除する。

■ **変換使用ソフト**
KDCONV_DIR
KDraster コンバート RS3RS

■ **KDCONV_DIR の属性ファイル(dir_in.atr)の設定**
KDCONV_DIR の属性ファイル(dir_in.atr)で変換コンバートソフトの実行名、
マルチページ指定、ソート指定を設定します。

CONVERT_NAME = RS3RS---------- RS3RS を指定
DIR_MULTI_PAGE = Y ------------ マルチページ指定あり
DATA_SORT = NAME -------------- 名前順でデータ変換

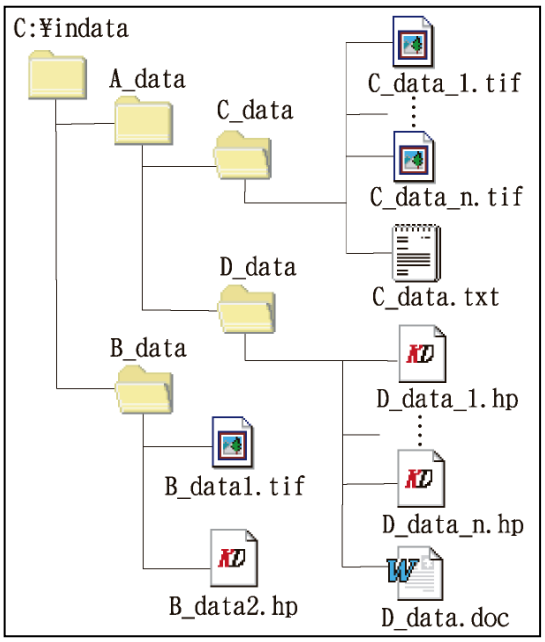
■ **マルチページ変換**
上記のコマンドを入力します。出力ディレクトリはコマンドライン上で実行時に指定すれば自動的に作成されます。

C:¥indata の中の TIFF ファイルはディレクトリごとに名前順にソートされ、マルチページの TIFF ファイルに変換されます。
ファイル名はフォルダ名に拡張子を付けたものとなります。
変換された TIFF ファイルは入力ディレクトリと同じ階層構造で C：¥outdata に格納されます。
C：¥indata の中にあった TIFF ファイル以外は C：¥outdata にコピーされません。
またオプション-deldir_all を指定すると、変換後に C：¥indata の中のファイルがすべて削除され、
C：¥indata の中は空となります。

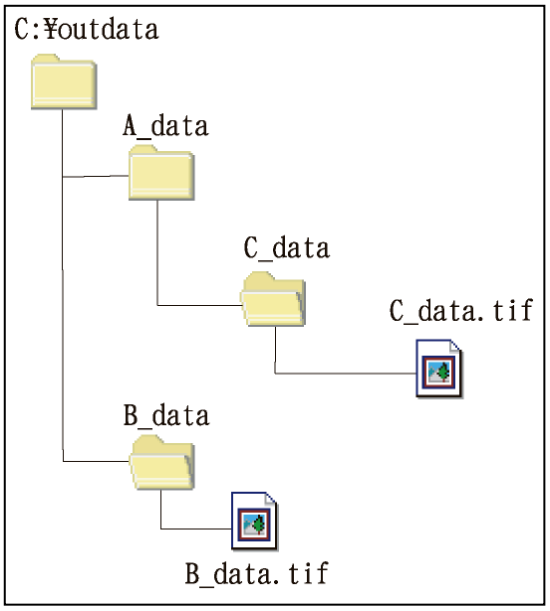
■ **入力コマンド**

```
C：¥> KDCONV_DIR indata -ooutdatat -extintif -extouttif -dirn -deldir_all
```

-o　　：出力ディレクトリ名(outdata)
-extin　　：変換する入力ファイルの拡張子(tif)
-extout　　：変換後のファイルフォーマットの拡張子(tif)
-dirn　　：指定拡張子以外のファイルは無視
-deldir[mode]：変換終了後に入力ディレクトリ内のファイルを削除。



変換するディレクトリ構成



例 3 の出力側ディレクトリ構成

【例 4】

KDdiffer(比較ソフト)を使う時、入力フォルダ(またはファイル)は 2 個を指定して、処理を行えます。
注：この例の使用方法は合成ソフト(XDWMGXDW など)の場合にも適用です。

■ **変換使用ソフト**

KDCONV_DIR
新旧データ比較 HPDIFF

■ **KDCONV_DIR の属性ファイル(dir_in.atr)の設定**

KDCONV_DIR の属性ファイル(dir_in.atr)で変換コンバートソフトの実行名、
マルチページ指定、ソート指定を設定します。

CONVERT_NAME = HPDIFF ------HPDIFF を指定
INFILE_NUM = 2 -------------入力フォルダ(又はデータ)の個数は 2 個となります。

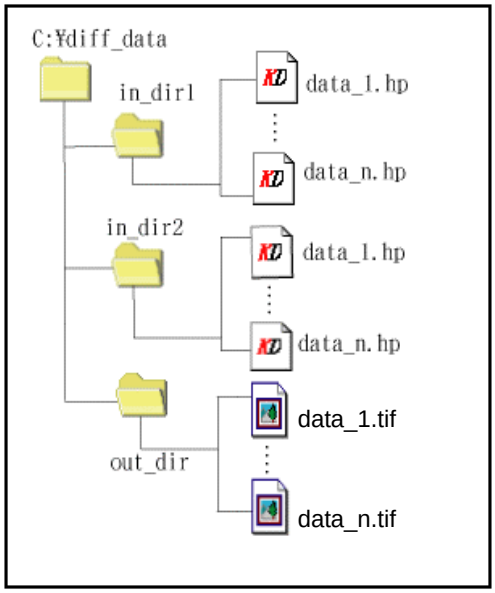
■ **比較結果を出力**

下記のコマンドラインを入力すると、C：¥diff_data¥in_dir1 と C：¥diff_data¥in_dir2 の中の
HPGL ファイルは一対一に比較し、比較結果は C：¥diff_data¥out_dir を出力されます。

■ **入力コマンド**

```
C：¥> KDCONV_DIR in_dir1 in_dir2 -oout_dir -DATRdir_in.atr -EXTINhp -EXTOUTtif
```

-o　　：出力ディレクトリ名(out_dir)
-extin ：変換する入力ファイルの拡張子(hp)
-extout：変換後のファイルフォーマットの拡張子(tif)



例 4 の出力側ディレクトリ構成